

本資料のうち、枠囲みの内容は、
営業秘密又は防護上の観点から
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-500 改 1
提出年月日	平成 30 年 8 月 21 日

日本原子力発電株式会社
東海第二発電所 工事計画審査資料
放射性廃棄物の廃棄施設
気体，液体又は固体廃棄物処理設備
液体廃棄物処理系
(再生廃液処理系)

(本文)

放射性廃棄物の廃棄施設

2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

2.2 液体廃棄物処理系

2.2.3 再生廃液処理系

(1) 熱交換器

a. 廃液濃縮器加熱器

(4) 容器

a. 廃液中和タンク

b. 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク

(8) ろ過装置

a. 廃液濃縮器

(10) 主配管

2.2.3 再生廃液処理系

- (1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変 更 前	変 更 後
名 称				廃液濃縮器加熱器*1	変更なし
種 類		—		たて置直管式*2	
容 量 （ 設 計 熱 交 換 量 ） *3		MW/個		<input type="text"/> (4.88*4, *6)	
管 側	最 高 使 用 圧 力	MPa		(正圧) 0.34*6 (負圧) 0.10*6	
	最 高 使 用 温 度	℃		149	
胴 側	最 高 使 用 圧 力	MPa		0.34*6	
	最 高 使 用 温 度	℃		149	
伝 熱 面 積		m ² /個		<input type="text"/> (95.4*4)	
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径*7	mm	901.7*4	
		胴 板 厚 さ*8	mm	<input type="text"/> (6.35*4)	
		鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (6.35*4, *9)	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	914.4*4, *9 (鏡板中央部内半径)	
				54.9*4, *9 (鏡板隅の丸み半径)	
		平 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (38.1*4, *9)	
		リサイクル入口管台外径	mm	406.4*4, *11	
		リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.35*4, *11)	
		リサイクル出口管台外径	mm	323.85*4, *11	
		リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.35*4, *11)	
		フランジ厚さ（上部）	mm	<input type="text"/> (50.8*4, *9)	
		フランジ厚さ（下部）	mm	<input type="text"/> (51*4, *10)	

(続き)

				変 更 前	変 更 後	
主 要 寸 法	胴 側	胴 内 径	mm	889.0*4		
		胴 板 厚 さ*12	mm	<div></div>	(12.7*4)	
	管 板 厚 さ		mm	<div></div>	(50.8*4)	
	伝 熱 管 外 径		mm	50.8*4		
	伝 熱 管 厚 さ		mm	<div></div>	(1.24*4)	
	高 さ*13		mm	6225.5*4, *14		
材 料	管 側	胴 板*15	—	SUS316L相当材 <div></div> 及びSUS316L*16		
		鏡 板	—	SUS316L*10		
		平 板	—	SB49相当材 <div></div>		
		フ ラ ン ジ （ 上 部 ）	—	SB49相当材 <div></div>		
		フ ラ ン ジ （ 下 部 ）	—	SM490A*10		
	胴 側	胴 板*5	—	SB35相当材 <div></div>		
		管 板		—	SUS316L相当材 <div></div>	
		伝 熱 管		—	SUS316LTB相当材 <div></div> 及びSUS316LTB*17	
	個 数		—	2		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器，加熱器」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式（二脚支持）」と記載。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。

*4：公称値を示す。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

*6：S I 単位に換算したもの。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 内径」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 厚さ」と記載。

- *9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年3月28日付け50資庁第1524号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。
- *10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体・固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。
- *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴 厚さ」と記載。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。
- *14：記載の適正化を行う。既工事計画書には、水室底部から上部フランジまでの高さである「6174.7」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴」と記載。
- *16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。
- *17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316LTB相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。

- (4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液中和タンク	
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /個	<div></div> (68.2*3)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭*4		
最 高 使 用 温 度	℃	100		
主 要 寸 法	胴 内 径*5	mm	3400*3	
	胴 板 厚 さ*6	mm	<div></div> (8*3)	
	鏡 板 厚 さ*8	mm	<div></div> (12*3)	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	3400*3, *9 (鏡板中央部内半径)	
			340*3, *9 (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 (屋 根) 厚 さ	mm	4*3, *10	
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3*3, *7	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	<div></div> (6.0*3, *7)	
	入 口 管 台 外 径	mm	165.2*3, *11	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	7.1*3, *11	
	高 さ	mm	8476*3, *12	
材 料	胴 板*13	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
個 数		—	2	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。

*3：公称値を示す。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。

- *7 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- *8 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- *9 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- *10 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- *11 : 既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *12 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- *13 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃棄物処理建屋高電導度 ドレンサンプタンク	
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m ³ /個		□ (8.2 ^{*1})	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1700 ^{*1}	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (10.0 ^{*1})	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (10.0 ^{*1})	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1700.0 ^{*1, *2} (鏡板中央部内半径)	
			170.0 ^{*1, *2} (鏡板隅の丸み半径)	
	オーバフロー入口 管 台 外 径	mm	165.2 ^{*1, *2}	
	オーバフロー入口 管 台 厚 さ	mm	□ (7.1 ^{*1, *2})	
材 料	高 さ ^{*3}	mm	3740 ^{*1, *4}	
	胴 板	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
個 数			1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法 ^{*5}			液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

変更なし

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-3 再生廃液処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-3-(1) 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク」による。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚からタンク上端部までの高さである「3810」と記載。記載内容は、設計図書による。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。

*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

(8) ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液濃縮器	
種 類	—		たて置円筒形* ¹	
容 量* ²	m ³ /h/個		<input type="text"/> (6.8* ³)	変更なし
最 高 使 用 圧 力	MPa		(正圧) 0.34* ⁴ (負圧) 0.10* ⁴	
最 高 使 用 温 度	℃		105	
主 要 寸 法	胴 内 径* ⁵	mm	2400* ³	
	胴 板 厚 さ* ⁶	mm	<input type="text"/> (10* ³)	
	鏡 板 厚 さ* ¹³	mm	<input type="text"/> (10* ³)	
	円すい形鏡板厚さ* ¹³	mm	<input type="text"/> (10* ³)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2400* ³ , * ⁷ (鏡板中央部内半径)	
			240* ³ , * ⁷ (鏡板隅の丸み半径)	
	円すい形鏡板の形状に係る寸法	mm	240* ³ , * ⁷ (すその丸み半径)	
	リサイクル入口管台外径	mm	318.5* ³ , * ⁷	
	リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10.3* ³ , * ⁷)	
	リサイクル出口管台外径	mm	508* ³ , * ⁷	
	リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10* ³ , * ⁷)	
	蒸気出口管台外径	mm	508* ³ , * ⁷	
	蒸気出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10* ³ , * ⁷)	
	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	<input type="text"/> (82* ³ , * ⁷)	
	高 さ	mm	5402.2* ³ , * ⁹	
材 料	胴 板* ¹⁰	—	SUS316L	
	鏡 板* ¹¹	—	SUS316L相当材 <input type="text"/>	
	円すい形鏡板* ¹¹	—	SUS316L* ¹²	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SF45* ⁷	
個 数	—		2	

- 注記
- *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。
 - *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量」と記載。
 - *3：公称値を示す。
 - *4：S I 単位に換算したもの。
 - *5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
 - *6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
 - *7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年5月24日付け51資庁第1613号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-1 廃液濃縮器」による。
 - *8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
 - *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、リサイクル出口管台から上部鏡板までの高さである「5551.2」と記載。記載内容は、設計図書による。
 - *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
 - *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板」と記載。
 - *12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材 および SUS316L」と記載。
 - *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。





(10) 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A ～ 廃液中和タンク入口管合流点		1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし				
					48.6	3.7*1	SUS316LTP						
					76.3	5.2*1	SUS316LTP						
					76.3	5.2*1	SUS316TP						
	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A 出口管合流点		1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				
					48.6	3.7*1	SUS316LTP						
	*3 廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管		1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP		変更なし				
					76.3	3.5*1	SUS316TP						
	*4 廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク		1.03*2	65	165.2	7.1*1	SUS316TP		変更なし				
	*5 廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ		1.03*2	65	114.3	6.0*1	SUS316TP						
					60.5	3.9*1	SUS316TP						
					48.6	3.7*1	SUS316TP						
	*6 廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁 G13-F1612A, B		1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP		変更なし				

(続き)

変 更 前							変 更 後					
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A 吸込管 ^{*7}	1.03 ^{*2}	65	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316TP	変更なし					
		(正圧) 1.03 ^{*2}	65	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316TP						
		(負圧) 0.10 ^{*2}	105	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316LTP						
	弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B 吸込管 ^{*8}	1.03 ^{*2}	65	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316TP	変更なし					
		(正圧) 1.03 ^{*2}	65	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316TP						
		(負圧) 0.10 ^{*2}	105	48.6	3.7 ^{*1}	SUS316LTP						
	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A ^{*9}	(正圧) 0.34 ^{*2}	105	508.0	<div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 10px; margin: 0 auto;"></div> (6.5 ^{*1})	SUS316LTP	変更なし					
		(負圧) 0.10 ^{*2}										
再生 廃液 処理系	廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B ^{*10}	(正圧) 0.34 ^{*2}	105	508.0	<div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 10px; margin: 0 auto;"></div> (6.5 ^{*1})	SUS316LTP	変更なし					
		(負圧) 0.10 ^{*2}										
	廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A ^{*11}	(正圧) 0.34 ^{*2}	105	406.4	<div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 10px; margin: 0 auto;"></div> (6.5 ^{*1})	SUS316LTP	変更なし					
		(負圧) 0.10 ^{*2}										
再生 廃液 処理系	廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B ^{*12}	(正圧) 0.34 ^{*2}	105	406.4	<div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 10px; margin: 0 auto;"></div> (6.5 ^{*1})	SUS316LTP	変更なし					
		(負圧) 0.10 ^{*2}										

(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	105	318.5	 6.5*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし					
	廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	(正圧) 0.34*2 (負圧) 0.10*2	105	318.5	 6.5*1	SUS316LTP		変更なし					
	*13 廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	(正圧) 0.06*2 (負圧) 0.10*2	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP		変更なし					
	*14 廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	(正圧) 0.06*2 (負圧) 0.10*2	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP		変更なし					
	*15 廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	(正圧) 1.03*2 (負圧) 0.10*2	65	89.1	4.0*1	SUS304TP		変更なし					
				76.3	3.5*1	SUS304TP							
	*16 廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	(正圧) 1.03*2 (負圧) 0.10*2	65	89.1	4.0*1	SUS304TP		変更なし					
				76.3	3.5*1	SUS304TP							

(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	*17 廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ	(正圧) 1.03*2	105	48.6	3.7*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし					
		(負圧) 0.10*2		60.5	3.9*1	SUS316LTP							
		1.03*2	100	60.5	3.9*1	SUS316LTP							
	*18 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	1.03*2	100	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし					

注記 *1：公称値を示す。

*2：S I 単位に換算したもの。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ“A” “B” 吐油管（高電導度ドレンサンプポンプより廃液中和タンク“A” “B” 入口管まで）」と記載。

*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液中和タンク“A” “B” 入口管」と記載。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” 吸込管（廃液中和タンク“A” “B” より廃液濃縮器供給ポンプまで）」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” より出口弁まで）」と記載。

*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“A” 出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吸込管まで）」と記載。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“B” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“B” 出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吸込管まで）」と記載。

*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吸込管（廃液濃縮器“A” より廃液濃縮器循環ポンプ“A” まで）」と記載。

*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吸込管（廃液濃縮器“B” より廃液濃縮器循環ポンプ“B” まで）」と記載。

*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吐油管（廃液濃縮器循環ポンプ“A” より廃液濃縮器加熱器“A” まで）」と記載。

*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吐油管（廃液濃縮器循環ポンプ“B” より廃液濃縮器加熱器“B” まで）」と記載。

*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“A” 出口管（廃液濃縮器“A” より廃液濃縮器復水器“A” まで）」と記載。

*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“B” 出口管（廃液濃縮器“B” より廃液濃縮器復水器“B” まで）」と記載。

*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“A” 出口管（廃液濃縮器復水器“A” より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“B” 出口管（廃液濃縮器復水器“B” より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ A,B より濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C ヘッダまで」と記載。

*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C ヘッダより濃縮廃液貯蔵タンク A,B,C まで」と記載。

*19：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書（Ⅲ-1-3-5）」による。

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (16／30)

				変 更 前				変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	再生廃液処理系	熱交換器	廃液濃縮器加熱器	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
			容器	廃液中和タンク	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
			ろ過装置	廃液濃縮器	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
			主配管	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプA ～ 廃液中和タンク入口管合流点	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプB ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプA 出口管合流点	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁 G13-F1612A, B	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプA吸込管	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－
				弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプB吸込管	B－1	クラス3	－	変更なし	－	－	－	－

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (17／30)

				変 更 前				変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス		耐震重要度分類	機器クラス	設備分類	重大事故等機器クラス
気体，液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	再生廃液処理系	主配管	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－
				濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	B－1	クラス 3	－	変更なし	－	－	－	－

表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (30／30)

			変 更 前					変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス	
気体， 液体又は 固体廃棄物 処理設備	その他	その他（排気筒）	排気筒	主排気筒	C－1	－	－	変更なし				－	－
			排気筒	非常用ガス処理系排気筒	S	－	－	変更なし				－	－

注記 *1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針，適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。
*2：当該ラインについては，主配管に該当しないため，記載の適正化を行う。